

# 日蓮宗

## 備後長久山

### 妙政寺

#### 略史

備後福山二代藩主 水野美作守勝俊公 菩提寺である当山は福山城北の地吉津町に位置し、京都本山妙伝寺末である。当山はかつて天正年中（一五七三）三州刈屋において水野和泉守忠重（福山藩主初代水野勝成公の父）の家臣、上田無甚 齊正勢大居士位の創建になった寺である。

後に大和郡山へ三州岡崎より水野藩と共に移建。寛永五年（一六二八）住職、恕正院日有聖人の時代、これを福山寺町の寿量山寂圓寺「元和年中（一六一五）浄土眞宗、現、光善寺に合併」前地に移建した。そして寛文六年（一六六六）九月には水野家家老の上田玄藩氏（無甚齊氏の孫）が、さらにこれを吉津の弘宗寺（現、東町臨濟宗）を取除き、その跡地を含め規模を拡張して妙政寺をここに移転再興させ、現代に発展させる基礎固めをした。

当地方における日蓮宗門の伝導弘布は、京都を中心とする日像菩薩・大覚大僧正にはじまり、日親聖人によってその実を一層深められ、爾来各城主や有力武家の外護、さらには庶民階層の間にも早くから浸透し、信者の増大があった。こうした熱烈な帰依者によって支えられたこの地域の日蓮宗門は、「備前法華」に相對する「備後法華」としてその名があり、まさに宗門伝道の一大拠点となっていた。特に備後三山中本寺格の水呑町妙顕寺並びに熊野町常国寺を中心としてその盛行には講中の組織なども含めて、かなり熱心なものがあつた。

江戸幕藩体制下幕府の仏教保護政策に呼応して、日蓮宗門にみる偉大な名僧・学僧の輩出は、行学二道の精進から、よ

り多くの帰依信奉者を全国的に続出せしめ、いよいよ宗門寺院の隆盛将来させているが、その類例にもれず当山にあつても、城主水野勝俊公が大檀那となり、絶大なる外護をしてその繁栄を一段と高めた。

その理由は、慶安五年（一六五二）勝俊の息女万寿姫が病疾のため、その全快を期すべく当山に祈禱を命じたことにはじまり、雨祈禱等により、その靈験にこたえて自ら改宗して大信者となっている。

現在もその規模拡大にして当時創建された大本堂、新築なった近代的設備を誇る大庫裡、旧来の山門、仁王門、小堂（隠居所）、観音堂、水野家位牌堂、鍾樓堂新たに改築された位牌堂（釈迦堂）、大庭園などが完備され、その偉容には圧倒されるかの感深く、まさに戦後の備後福山市における、地の利を得た最大級の備後三山中本寺格寺院として、その盛況を極めている。かつて福山水野阿部両藩より六十二石、十五人扶持が給付されていたを知らばなおさらである。

水野美作守勝俊公は、初代福山藩主勝成公の嫡男にして、はじめ「勝重」と呼んだがのち「勝俊」と改めている。慶長三年（一五九八）七月二十五日備中成羽に誕生し、母は三村紀伊守親成の養女であるが、実は家臣藤井広玄氏の娘であつた。彼は慶長十三年（一六〇八）二代將軍秀忠公に仕え美作守に、任ぜられた。大阪冬・夏の両陣には父勝成と共に戦功をたてている。

水野勝成公は、元和五年（一六一九）備後に移封せられ、近世都市福山の城下町を形成させるに尽力した初代藩主であ

るが、民政に尽くし、池溝を設け、新涯を築き、社寺を興すほか文教政策にも大いに意を用いた著名な藩主であつた。福山城の完成は元和八年（一六二二）であり、葦陽城または久松城とも呼称されている。この初代勝成公が福山に入城した事情から、二代勝俊公は海南を鎮護する任にあたり軻の津に住した。勝俊公が周辺の民衆から、「軻殿」と言われた所以もここにある。よつてその嫡男勝貞公は、寛永二年（一六二五）六月二十八日軻で誕生している。

さて、勝俊公は嘉永五年（一六二八）の熊本城の請取りも父と共に下向し、また寛永十六年（一六三九）二月、島原の乱にも父に従つて参戦し、子息勝貞と共に島原城本丸の先登をなしたことで有名である。この年から家督を襲ぎ、参勤するようになっていく。勝俊公は承応四年（一六五五）二月二十一日江戸桜田邸で五十八才の天寿を終え、葬礼は江戸芝二本榎の承教寺（現高輪）で行われ、遺骨はその後妙政寺に納められた。この殉死者七名のうち三宅半助氏、河上一郎右衛門氏、馬場長右衛門氏の二名は江戸で、上田七兵衛氏、田中十郎右衛門氏、横山惣右衛門氏、西山半左衛門氏、の四名は当福山の地で殉死しており、各霊墓もまた当山に祀られている。

勝俊公の正室は九鬼長門守藤原守隆公の娘であり、寛文二年（一六六二）死去。江戸深川霊岸寺に葬られている。その他、水野藩筆頭家老上田氏代々阿部公正室（佐原氏子）水野、阿部藩両関係者、儒臣として伊藤仁斉氏の二子、東涯の異母弟たる伊藤梅宇氏の室佐野氏の墓や、福山藩学弘道館（誠之館の前身）で教授職にあつた儒家衣川氏、および阿部家筆頭

家老佐原氏代々の霊墓など著名人の墓石が多い。また水野十郎三衛門氏並びに宮本武蔵氏、平井氏寄進の六角型大石灯籠一対や、鐘樓にみる大梵鐘は福山にとつて由緒深いものである。殊にこの釣鐘は福山の城郭築造に土木工事の名手と仰がれた神谷治郎長次氏が、信解院殿理圓日證大居士（勝俊公）の追善のため、明暦二年（一六五六）鑄造したものであつて、第二次世界大戦中といえども特にその存置命令によつて現在に保存されたものである。尚、末寺の守妙院は呉市『法華寺』と名を変え移転合併され、観音堂内にご本尊を安置。

これらに加えて、宗門の宗宝、准宗宝並びに日蓮大聖人御真筆、断簡二幅、日重、日乾、日遠三師の本尊三幅対、元政上人筆、経塔曼陀羅、十界絵曼陀羅、了義院日達上人真筆の本尊一幅、狩野探幽筆の水墨山水図三幅対、狩野永徳筆の水墨達磨画像一幅、水野阿部両藩主の書と絵、俳人野々口立圃筆卷子仕立勝俊公「臨終記」の他、寺宝として数百点の優品が伝存することも付記しておく。（現在、福山城博物館にすべてあずけてある）

「七〇〇遠忌記念・二六世日敬代・文」  
 〓福山市妙法寺住職妹尾啓司聖人

備後妙政寺 水野美作守勝俊公御廟所 (市史蹟)

